

矢掛中学校



1 題材 地域の食材を生かした調理の工夫

2 目標

○自分の食生活や行事食，地域の食材を用いた郷土料理に関心をもち，進んでよりよい食生活をおくろうとすることができる。

＜関心・意欲・態度＞

○我が家の雑煮や矢掛の行事食・郷土料理について調べたことを，わかりやすく発表するための工夫ができる。

＜創意・工夫＞

○計画にそって安全・衛生や作業の能率に留意しながら，地域の食材を生かした調理をすることができる。

＜生活の技能＞

○日本の行事食や伝統食について知り，地域の食材を生かした郷土料理について理解することができる。

＜知識・理解＞



3 指導計画（7時間）

第一次 日本の行事食・伝統食について 2時間

第二次 行事食・郷土料理について調べる 2時間

第1時 レポート「我が家の雑煮」の発表とまとめ（本時）

第2時 矢掛の行事食・郷土料理について

第三次 矢掛の食材を生かした調理の計画と実習 3時間

4 指導上の立場

(1) 題材について

我が国は温暖な気候のもと，海の幸・山の幸に恵まれており，日本人は四季折々の産物でその季節や土地に応じた調理や加工の方法を生み出してきた。それが，行事食や郷土料理として現在に引き継がれている。しかし近年，簡便性が強調されるあまり，画一的で偏った食事が多くみられ，豊かさゆえの貧しい食生活になってきている。さらに，加工食品や輸入食品の増加により，季節感や地域性なども失われつつある。食にかかわる問題点も多い今日，古来から伝承された行事食や郷土料理を見直し，地域の食材を生かした調理に取り組むことにより，日本の食文化や伝統を尊重する態度を身につけさせることができるのではないかと考え，本題材を設定した。

(2) 指導・支援について

生徒の実態から，授業の中で「聞きたい」「発表したい」と思わせる場面を設定することとした。まず，日本の行事食や伝統食について学習をした後，同じ行事食でも地域により材料や作り方に違いがあることを知らせ，それぞれの家庭でお正月に食べるお雑煮などについて調べさせることとした。これにより生徒が自分の家と友達の家の違いに関心を持ちながら発表を聞くことができるよう工夫した。さらに，調べた行事食・郷土料理ごとに小グループを作り，地域の食材を用いた料理について，小グループ内でまとめたり発表をさせたりすることとした。

(3) 研究主題とのかかわりについて

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて、本校では、ICT機器の活用などの授業改善を通して、「自分の思いや考えを表現できる生徒の育成」を研究主題とし、研究を進めている。本題材では、自分が調べてきた「我が家の雑煮」について発表する際や「矢掛の行事食・郷土料理」についてまとめる際に、3～4人の小グループにすることによって、自分の意見を発表したり相手の意見を聞いたりするコミュニケーション活動の活性化を図ることとした。また、発表内容や学習内容をまとめる際には電子黒板や教材提示装置を活用して、よりわかりやすい発表や授業を工夫したい。

5 本時の指導 (第二次の第1時)

(1) 目標

○我が家の雑煮についてわかりやすく発表することができる。

＜関心・意欲・態度＞

○同じ雑煮でも、地域により材料や作り方に違いがあることを理解することができる。

＜知識・理解＞

(2) 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 ・ 方 法
1 本時の目標を確認する。	○ 本時は、冬休みに調べたそれぞれの家庭の雑煮について発表し、行事食の地域的な特徴を理解することを知らせる。	
『我が家の雑煮』を紹介しよう。		
2 グループごとに、雑煮についてのレポートを発表する。	○ 発表の形式やワークシートの記入方法を知らせ、相手にわかりやすい発表になるよう工夫させる。 ○ ワークシートに発表の内容についてまとめることで、相手の発表を注意深く聞くことができるよう配慮する。	○ 我が家の雑煮について、わかりやすく発表することができるか。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート・観察)
3 全体発表をする。	○ 各グループの代表者に、教材提示装置を用いて発表させる。	
4 それぞれの地域による雑煮の特徴を知る。	○ 生徒の発表に様々な資料を追加し補足説明することで、地域によって雑煮の食材や調理方法の違いがあることを知らせる。	○ 地域により、雑煮の材料や調理法に違いがあることが理解できているか。 【知識・理解】 (ワークシート)
5 自己評価をする。	○ ワークシートに自己評価を記入し、自分の学習活動を言葉でまとめさせる。	
6 次時の予告を聞く。	○ 次の時間は、各自が調べた行事食から矢掛の郷土料理を考えていくことを知らせる。	

1 単元名 DO IT TALK 5 どうしましたか
(病気やけがなどについて聞くとき)

2 目標

- 健康状態について尋ねたり，答えたりする
場面で，アイコンタクトを意識し，ジェス
チャーも用いて積極的に活動に取り組むこ
とができる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 相手の健康状態を尋ねたり，気づかったり
する表現や，自分の健康状態を説明する表
現を正しく使い，話すことができる。
(表現の能力)



- 相手の健康状態を尋ねる表現や，自分の病気やけがなどについて説明する表現につい
て理解することができる。
(言語や文化についての知識・理解)

3 指導計画(2時間)

第1時 健康状態を尋ねたり，説明したりする表現を知ろう・・・1時間

第2時 健康状態を尋ねたり，説明したりする表現を使おう・・・1時間(本時)

4 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は，飛行機の機内で体の調子が悪いことを客室乗務員に告げる場面を通して
次の4つの表現を学習する。

- ・健康状態を尋ねる表現
- ・自分の病気やけがについて説明する際の基本的な表現
- ・不調を訴えている人に何か手当を申し出る表現
- ・お礼を述べる表現

生徒は，毎時間，“How are you?” “I’m fine.”のようなあいさつとして相手の体調
を尋ね合う会話は行っているが，具体的な健康状態を表す表現については初めてであ
る。本単元で，日頃使うことができる様々な表現を導入することにより，会話の幅を
広げていきたい。

(2) 指導・支援について

教科書の表現だけでなく，多様な表現を導入することにより，語彙力を高めたい。
また，小道具を用いて教師によるモデルとなる会話を提示することにより，具体的に
会話の場面を想起できるようにしたい。話す活動については，フィードバックが行わ
れにくいいため，それぞれのペアでオリジナルスキットを作って，練習したあと，お互
いに発表することを通して，会話表現の定着や表現力の向上を図りたい。

(3) 研究主題とのかかわりについて

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて，本校では，I C
T機器の活用などの授業改善を通して，「自分の
思いや考えを表現できる生徒の育成」を研究主題
とし，研究を進めている。自分の発話が相手に伝
わる楽しさを味わわせるために，ペアワークでオ
リジナルスキットを作ることにより，一人一人の
発話の機会を確保している。また，電子黒板を利
用して，単語や文章表現をわかりやすく提示し，
生徒たちが習得しやすいように工夫をしたい。



5 本時の指導（第2時）

(1) 目 標

- アイコンタクトやジェスチャーを意識して、積極的に活動に取り組むことができる。
<コミュニケーションへの関心・意欲・態度>
- 相手の健康状態を尋ねたり気づかたりする表現や、自分の健康状態を説明する表現を正しく使い話することができる。
<表現の能力>

(2) 展 開

学 習 活 動	教 師 の 支 援		評 価 ・ 方 法
	J T E	A L T	
1 あいさつをする。			<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に活動に取り組んでいたか <small>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</small> (観察) ○ 健康状態を尋ねたり説明したりする表現を正しく使って会話を行うことができたか。 <small>【表現の能力】</small> (評価カード) (観察)
2 簡単な質問を英語で行う	○ 既習の英文を使って、英語の質問をすることによって、英語学習の雰囲気作りをする。		
3 本時の学習内容を確認する。	○ 目標をもって意欲的に取り組めるように、本時の学習内容を伝える。		
4 単語や表現の復習をする。	○ 絵を見ながら単語や表現の意味を確認する。	○ テンポよく発音をして、楽しく復習できるようにする。	
健康状態を尋ねたり、説明したりする表現を使って会話をしよう。			
5 ノットビンゴゲームをする。	○ ゲームのやり方が理解できているか、確認する。	○ ゲームのやり方を英語でわかりやすく説明する。	
6 教師の対話を聞く。	○ 教科書の内容以外の多様な表現を入れた会話を小道具を用いて行うことにより、会話の場面を想起しやすいようにする。		
7 ペアでオリジナルスキットを作り、練習する。	○ ワークシートを配付することにより、オリジナルスキット作りに積極的に取り組むことができるようにする。	○ アイコンタクトやジェスチャーを意識するなどの観点を示して、積極的に会話練習に取り組むことができるようにする。	
8 スキットを聞き合う。 (1) ペア同士で発表し合う。	○ お互いのスキットを聞き合って、相互評価を行うようにする。		
(2) 2～3ペアの発表を聞く。	○ それぞれのペアの発表を聞いて、発表したペアへの賞賛やアドバイスを行うことにより、英語を話すことに対する意欲が高まるようにする。		
9 本時のまとめと自己評価をする。	○ 基本的な表現の復習を行い、定着を図る。 ○ 目標を達成できたか、自己評価をするように指示する。		
10 あいさつをする。			

1 題材 「枕草子」(第1段, 第151段) 清少納言

2 目標

- 古典に表れたものの見方や考え方に触れ, 作者の思いを想像しながら読み, 自分の考えをもととする。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- 古典に表れているものの見方や考え方について, 知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。
〈読む能力〉
- 作品の特徴を生かし, 作者の思いを想像しながら朗読することができる。
〈言語についての知識・理解・技能〉



3 指導計画 (全5時間扱い)

- 第1時 「春はあけぼの」を音読し, 古典特有のリズムを味わう。 . . . 1時間
- 第2時 「春はあけぼの」を読んで, 作者の自然観や美意識を理解する。 . . . 1時間
- 第3時 「春はあけぼの」にならって, 現代版「春はあけぼの」を創作する。 . . . 1時間
- 第4時 現代版「春のあけぼの」を清少納言に届けるための手紙を書く。 . . . 1時間(本時)
- 第5時 「うつくしきもの」を読んで, 作者のものの見方や考え方について話し合う。 . . . 1時間

4 指導上の立場

(1) 題材について

本題材は, 2年生最後の古典学習として位置づけられており, 隅々まで磨き抜かれた随筆の代表作である。「枕草子」第1段「春はあけぼの」では, 四季それぞれにおいて, 作者が「をかし」ととらえたもの, 第151段「うつくしきもの」では, 「うつくし」ととらえたものが繊細に描かれている。

そこで, これらの題材を通して, 自分の知識や体験と比較しながら, 作者の鋭い観察力や豊かな感性, 美意識にかなうものをじっくり味わわせたい。また, 原文を模倣して書く活動を取り入れ, 作者と同じ立場に立たせることで, 作者の表現の豊かさに気付かせたい。それにより, 古典をより身近なものとしてとらえさせ, 古典の世界の楽しさを味わわせたい。

(2) 指導・支援について

繰り返し音読させたり, 暗唱させたりすることにより, 古典特有のリズムに気付かせたい。また, 現代語訳を手がかりに読ませることで, そこに描かれている情景や人物の心情など作者の思いを適切に読み取らせたい。枕草子の「春はあけぼの」で, 原文の表現形式を活用して, 創作活動を取り入れることで, 作者と同じ立場から作者の表現の豊かさに気付かせると共に, 表現活動と関連させることにより, 古典の世界をより身近に感じられるようにしたい。前もって書いたものを発表したり, 小グループでの発表の場面を取り入れたりとすることで, 表現することへの抵抗感を取り除きたい。

(3) 研究主題とのかかわりについて

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて, 本校では, ICT機器の活用などの授業改善を通して, 「自分の思いや考えを表現できる生徒の育成」を研究主題とした研究を進めている。現代版「春はあけぼの」の創作や作者に手紙を書いて発表する活動を取り入れることは, 古典学習を受け身ではなく, 主体的に進めていく活動であり, 研究主題である「表現力の育成」につながっていくと考えられる。



5 本時の指導（第4時）

(1) 目標

- 作者のものの見方や考え方について、自分の考えをもちながら読もうとする。
〈国語への関心・意欲・態度〉
- 作者のものの見方や考え方について、知識や体験と結びつけて自分の考えをもつことができる。
〈読む能力〉

(2) 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 ・ 方 法
1 本時の目標をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「創作した現代版『春はあけぼの』を清少納言に届けよう。」と投げかけ、本時への学習の意欲を喚起する。 ○ 学習の「めあて」を黒板に提示し、目標をもって授業に取り組むことができるようにする。 	
創作した現代版「春はあけぼの」を清少納言に届けよう。		
2 現代版「春はあけぼの」を小グループで読み合い、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作品の表現の仕方や描写の工夫などについて感想を交流するように助言する。 ○ 現代版「春はあけぼの」と原文を比較することで、作者のものの見方や考え方について、現代との共通点や相違点を見付けられるようにする。 	
3 現代版「春はあけぼの」に添える清少納言宛の手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「清少納言に届けるための手紙を書く」という課題を設定し、目的意識や相手意識をもって取り組めるようにするとともに、古典の世界を身近に感じることができるようになるようにする。 ○ 机間指導を行い、必要に応じてアドバイスをする。 ○ できた作品は、小グループで交流させ、それぞれのよいところについて感想を交流するように促す。 ○ 数名の生徒に発表させ、それぞれの工夫を称揚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作者のものの見方や考え方について、自分の考えをもちながら読もうとしている。 【関心・意欲・態度】 (観察)
4 作者の思いを想像しながら「春はあけぼの」(第1段)を朗読する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作者の思いを想像しながら「春はあけぼの」の原文を朗読し、古典の世界を楽しむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作者のものの見方や考え方をとらえ、それについて、自分の考えを手紙の中に書いている。 【読む能力】 (ワークシートの記述の点検)
5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習の「めあて」に対する振り返りをし、本時の学習の成果を実感できるようにする。 	

1 題材 国内の地域のちがいに注目して国を調べよう ～中国～

2 目標

○ 中国における地域的特色と環境問題に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。

＜社会的事象への関心・意欲・態度＞

○ 国の特色ある地理的事象を見出し、それを多面的・多角的に考察することができる。

＜社会的な思考・判断＞

○ 収集した資料から適切な地理的情報を読みとり、地域的特色を分かりやすくまとめることができる。

＜資料活用の技能・表現＞

○ 中国の地域的特色及びそれを捉える視点や方法を理解することができる。

＜社会的事象についての知識・理解＞



3 指導計画（6時間）

第一次 国の特色になるものを見つける・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第二次 地域による人口のちがいを調べる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第三次 地域による農業のちがいを調べる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第四次 地域による工業のちがいを調べる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第五次 国を調べてわかったことをまとめる・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間

第1時 中国の環境問題の砂漠化の解決方法を考える・・（本時）

第2時 中国の特色をまとめる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 指導上の立場

(1) 題材について

取り上げる中国は東西南北に広大な国であり、地域差が明確に見られることに着目して地域的特色を明らかにしていく方法が適切であると考えます。また、砂漠化という環境問題を取り上げ、発展的に扱う。中国の砂漠化は対策をとっているにもかかわらず、深刻な環境問題であり日本も影響を受けている問題でもある。このような中国の課題を考察することで、地域的特色を多面的に理解できると考えられる。

(2) 指導・支援について

画像でイメージをもたせ、資料により地域による差やその要因を共通理解できるようにしている。また、ワークシートを活用し、考えたことを文章化することにより、自分なりの表現をできるようにしたり、考察させる時間の十分な確保やグループ学習により、発言を引き出すようにしている。生徒は砂漠化の知識をあまりもっていないので、それを補う助言をし、考察が深まるようにしたい。

(3) 研究主題との関連について

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて、本校では、ICT機器の活用などの授業改善を通して、「自分の思いや考えを表現できる生徒の育成」を研究主題とし、研究を進めている。特に、小グループ活動ではやや難しい課題を提示して、意見交換をしながら学び合う場面を設定している。




5 本時の指導（第五次の第1時）

(1) 目標

- 実効性の高い多面的な砂漠化の解決方法を考えることで、中国の地域的特色を多面的に考察できる。 <社会的な思考・判断>

(2) 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 ・ 方 法
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>砂漠と砂漠化の違いを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 砂漠化の写真を見て、関心をもつことができるようにする。 ○ 資料を提示して、砂漠と砂漠化は違うことを確認する。 ○ 地図資料から砂漠化が進む地域の範囲や周囲への影響を資料から読み取らせる。 	
<p>砂漠化の解決方法を考えよう。</p>		
<p>2 砂漠化の原因を調べて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 砂漠化に関する資料を提示して、その中から原因を見つけて書くように助言する。 ○ 見つけにくい生徒には、砂漠化モデル図を黒板に描き、理解を促すようにする。 	
<p>3 砂漠化の解決策を話し合っまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料から分かったことを基に、個人で考えさせる。 ○ 解決への糸口を考えにくい生徒には、机間指導で中国の既習内容を生かしたり、中国政府、国民、隣国等の立場を示して考えるように助言する。 ○ 小グループの活動では、自己のワークシートを持ち寄り、ワークシートに示された段階ごとに意見交換をさせることで、解決策をまとめることができるようにする。 ○ 一度考えた解決策について気候、自然、人々の生活の観点から問題はないかと投げかけることにより、実効性のさらに高い解決策を考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解決策を既習の知識を生かしながらまとめることができたか。 <p style="text-align: center;">【思考・判断】 (ワークシート)</p>
<p>4 本時のまとめと次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価を書かせて、中国にとって砂漠化はどのような問題なのか及び日本人としての自分ができることをまとめさせる。また、外国の環境問題にも触れ、関心をもたせる。 	